

Epistula

エピストウラ … epistula,ae,f. 手紙、文章【ラテン語】

vol. 20

2010.7【Jul】- 9【Sep】

保護者との「進路相談会」を開催

— “参加してよかった” の声。“開催時期を早く” の声も —



5月15日（土）の午後、学科2年生と専攻科2年生の保護者（ご家族）を対象に「進路相談会」を開催。全学で170名（141家族）の保護者の方々が参加されました。

2年前の世界同時不況以降、大学・短期大学生の就職は、大変きびしいものがあります。本学の21年度卒業生の就職内定率は、最終的には学科平均で88.3%に達しましたが、学生たちはなかなか内定をもらえず、苦戦を強いられました。

このような状況に立ち向かうには、大学と保護者とが緊密な連携をとり、学生への進路支援を行う必要があると考え、本

学では初めて、保護者との「進路相談会」を行いました。まず全体会では、中山学長あいさつの後、本学の進路支援体制や昨年度の進路状況（就職と進学）を説明。その後、学科ごとに分かれ、学科の進路支援の取り組みを説明し、保護者と教員との相談会をもちました。

会合後のアンケート結果では（回収率71%）、「親として不安なことが相談できてよかった」「就活の難しさと思うと、県外から出てきた甲斐があった」「親子で進路のことをもっと話し合う必要がある」など、参加してよかったという声を数多くいただきました。しかしその一方、「開催時期を早くしてほしい」「先生方と相談する時間がもっとほしい」などの要望もいただきました。この会は、保護者の皆様のお声をお聴きする貴重な機会となりました。寄せられましたご意見・ご要望は、今後の進路支援に活かしてまいります。（進路支援室長 吉山尚裕）

学科別相談会（音楽科）▶



大分市中心部で「府内☆学生Ecoフェスタ」開催

本学の学生らが企画・運営した初の地域イベント「2010府内☆学生Ecoフェスタ」（実行委員長・赤池すずか＝情報コミュニケーション学科2年）が6月19日、大分市の府内五番街商店街で行われました。大分市や府内五番街商店街などと共催。6月の環境月間にちなみ「エコ」を柱としたイベントで、本学からは約200人の学生が参加しました。

「情報発信」「音楽・映像」など、テーマごとに「ゾーン」が設けられ、地球環境の保護や地域活性化を考えました。

午後7時半すぎ、五番街商店街約400メートルにわたり廃油で作った約3千個のろうそくに一斉に火がともされると、キャンドルは光の列となり商店街は優しい雰囲気になりました。隣接するふないアクアパークでは、「日本一小さな花火大会」として約500本の線香花火の饗宴。参加者が多くて線香花火が足りなくなり、学生スタッフはうれしい悲鳴を上げていました。



大分県芸術文化振興会議と友好交流協定を締結

4月2日、県内の様々なジャンルで芸術文化活動に携わる団体、個人により組織される芸術文化団体である「特定非営利活動法人（NPO）大分県芸術文化振興会議」と友好交流に関する協定を締結しました。

本学で行われた調印式では双方から22名が出席。芸術文化振興会議の佐藤朱音理事長と本学の中山欽吾学長が芸術文化の振興促進を目的とする趣旨の協定書にサインしました。芸文短大としては、13機関（団体）目の友好協力協定締結となります。

今年2月から同会議所属の「さくら会（代表・杵屋六絹也）」の方より、芸文短大の学生（14名）に三味線を指導していただいています。10月3日、大分県民芸術文化祭の開幕行事「長唄・三味線演奏会」にも出演できることになりました。



「学長プロジェクト」スタート

5月14日、建築家の中山英之さんをお迎えし、今年度第1回目となる学長プロジェクトとして、『「建築家」ってどんなことをしている？』をテーマに講演が行われました。身近なものから柔軟な発想をいかに紡ぎ出していくかを語った講演は、とても親しみの持てるものでした。

続く第2回学長プロジェクトは、6月8日に前びわ湖ホール館長・上原恵美さん（京都橘大学教授）を迎えて実施しました。『地方で文化の仕事に関わって』をテーマに、女性が仕事を続けるということなどについて講演が行われ、感性豊かな学生たちにとって、非常に有益なものになりました。

「学長プロジェクト」今後の予定

- ・9月下旬 前朝倉文夫記念館館長、洋画家 後藤龍二氏
- ・10月16、23日（土）オリジナル織物作家 小坂恵子氏
- ・12月 軽井沢八月祭実行委員会
チーフ・プロデューサー 岩田美紀氏

スケッチ表現を用いて受講者に語りかける中山英之さん▶



大学教育に功績・本学教員に文部科学大臣表彰

短期大学が正式に制度として認められたのが昭和25(1950)年4月。今年は制度が発足して60年になります。全国公立短期大学協会（加盟・本学含む21校）では、短期大学教育60周年を記念して、5月28日、東京都港区の明治記念館で記念式典を開催しました。

そのなかで文部科学省は、短期大学教育にとくに功績のあった31名に大臣表彰を授与しました。

本学からは、音楽科・宮本修教授（声楽）、国際文化学科・染矢正一教授（英語）、情報コミュニケーション学科・凍田和美教授（情報処理）の3人が受賞されました。おめでとうございます。これからも芸文短大の発展にご尽力をお願いします。

写真左から 染矢教授、凍田教授、宮本教授、中山学長▶



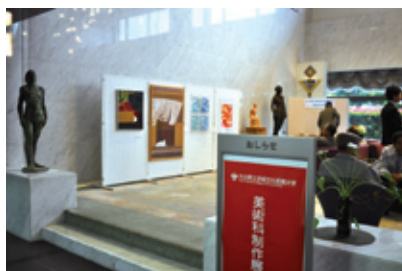
News 4

芸文短大 学科ニュース

美術科

▶ 県議会で「制作展」を開催しました

大分県議会の安部省祐議長からの提案により、本学美術科学生作品が6月7日から30日まで、県議会ロビーで「美術科制作展」として開催しました。制作展では、卒業制作買い取り作品として絵画3点と彫刻3点、それに今年度大分県警察に採用された警察官募集ポスターを含む16点が展示されました。



ちょうど、第2回定例会の会期中にもあたり、県議会の傍聴に来られた県民の方々が作品の前で足を止め、興味を示していました。なお、ロビーでは作品のほかに、芸文短大を紹介するパンフレットも置き、広報活動の一環にもなりました。

国際文化学科

▶ 最新のコールシステムを導入しました

国際文化学科では、4月、人文棟3階にある第一語学演習室に最新のコールシステム（Computer Assisted Language Learning）を導入しました。語学教材の会話のスピードを受講者が自分の能力に合わせて調整できたり、各自の席に備え付けられたパソコンを利用してインターネット上の生の情報を



素材としてそのまま授業の中で利用できたりと、旧来のシステムにはなかった様々な機能を用いた授業が可能となりました。

今後、このコールシステムを最大限に活用して、語学教育のより一層の充実をはかっていきたいと考えています。

音楽科

▶ 音楽科コンサートシリーズ 公開研究発表を開催しました

6月2日・23日、iichiko音の泉ホールで、専攻科2年生出演の公開研究発表を開催しました。当日は演奏の公開録画の形で行われました。この演奏録画は「大学評価・学位授与機構」に申請して試験に合格し、4年制大学と同等の学位を取得するための学修成果の提出に必要なものです。



また、9月22日は同ホールで「若さあふれるコンサート」、10月11日にはiichikoグランシアタで、「第46回定期演奏会」を開催します。

情報コミュニケーション学科

▶ 第80回あしなが学生募金活動に参加しました

今春、全国一斉に実施された、第80回あしなが学生募金活動。県内では4月24日・25日、5月1日・2日の4日間、大分市と別府市で行われ、本学からは過去最多の延べ150名の学生が参加しました。パルコ、トキハ前、大分駅などそれ



ぞれの持ち場に分かれ、募金の呼びかけやパンフレットの配布を行いました。「親を失った子ども達がひとりでも多く学業を継続できますように」という学生の呼びかけに、たくさんの人たちが足を止められ、参加した学生自身もこの活動の意味をあらためて理解できた4日間となりました。

学長コラム

中山 欽吾



似顔絵／小野 智子
（専攻科 造形専攻1年）

「社会に出るということ」

早いもので、芸文短大の学長に着任して1年半が経ちました。その間に2度の卒業式を経験し、着任当時いた学生諸君は、専攻科進学生を除き卒業していきました。短大の2年間は、あっという間に過ぎていくので、その間に社会に出る準備をしなければならないのは大変だなと思う半面で、芸文短大なら大丈夫だとも思っています。

今春の就職戦線は、年末までは未曾有の不調でした。しかし、年明け以来急カーブで挽回し、終わってみれば決定者数も決定率も昨年を上回ることができました。もちろん関係者みんなの懸命の進路開拓やアドバイス、皆さん自身の危機感があつたればこそですが、それだけだったのか、ここまで回復したのは「なしか？（なぜか）」という隠れた理由があったのではないかと考えています。

まず求人側から見て、「採用する人はこんな人であって欲しい」といった期待と、学生側の「こういう仕事をしたい」という希望が、どうすればうまくマッチするのか考えて見ましょう。それはまた「社会に出る意味」を自らに問い直すことでもあります。

毎年の就職活動では、事務職の希望者が群を抜いているのが特徴的です。仕事として安定しているとか、デスクワークの方が楽だと思っているのかもしれませんが、求人側がそのような考えの人を採用したいかどうかは別の話です。それに単純な事務職のポストは今後とも減ることはあっても増えることはないでしょう。単純な仕事は不景気になる度に派遣やアルバイトに置き換わっていくからです。一方で、これから伸びていく仕事では、技術・技能を持っている人、様々な仕事に対応できる応用力や柔軟性を持っている人達の重要度が高まります。

事務だけしか希望しない人と、色々なことができてしかも事務もできる人のどちらが求人側の希望に沿うのか考えれば、後者を選んだ学生の希望が合致する可能性が高いのは誰でも理解できるでしょう。芸文短大は、在学時からどんどん社会に参画し、「理性」と「感性」の両方の力で物事を見ろという、他では得難い教育機会が得られるのですから、この希望を叶える確率は大きいと断言しても良いと思います。そのことが社会に認められてきたのではないのでしょうか。

美術科

講師 **松本 康史** 先生

今年度より「プロダクトデザイン分野」が新設され、担当として松本先生が赴任されました。松本先生は明るく、でも落ち着いていて、とてもフレンドリーな印象です。現在までに様々な分野の工業デザインを手掛けた経験があり、各デザインコンペティションでも多くの受賞経験を持っています。多方面で積極的に新しいデザインに挑戦している姿はエネルギーに満ちあふれ、僕らも頑張らねばと奮起させられます。

松本先生の研究室に足を運ぶ機会が度々ありますが、分かりやすくて確かなアドバイスをもらい、それまで思い浮かばなかった新たな発想がひらめくたびに、デザインの面白さを再認識しています。

（専攻科造形専攻2年 山田 俊吾）

New
face

学生が語る
素顔の教師！
新任教員紹介

美術科

助教 **西口 顕一** 先生

西口顕一先生は今年新任で入ってこれ、デザイン専攻ビジュアルデザイン分野を担当されています。私は専攻科の学生なのですが、西口先生からは造形研究Iでwebデザインを教わっています。分かりやすい講義をしてもらって、学生からの人気も高い笑顔の素敵な先生です。

制作に関する相談に行くとき親身になって聴いてもらい、適切なアドバイスを頂きます。デザインに関する話から趣味の出来事まで、どんな話題でも盛り上がり、話が弾んで長居することもしばしば……。

まだ話したことのない学生は、ぜひ研究室に行ってみて欲しいです。（専攻科造形専攻1年 林田 晴菜）

竹田キャンパス

平成20年11月に締結した本学と竹田市との交流協定の一環として、21年9月に県内の高校生と美術科の学生たち60名によるアートキャンプを廃校となっていた旧下竹田小学校で実施しました。「これからも、創作活動の場として旧下竹田小学校を活用したい」との感想を持ったことから、竹田市と協議した結果、年間を通じて活用できる「芸文短大竹田キャンパス」を4月8日にオープンしました。



▲竹田キャンパスの開設を記念して前田講師と学生が制作した染色作品

「竹田キャンパス」では、ゼミやサークルの

合宿、創作活動の拠点として活用するほか、5月からは、本学で染色を指導している非常勤の前田亮二講師がアトリエとして常駐し、創作活動や学生への指導、地域との交流に取り組んでいます。

今号から、前田講師による「竹田キャンパス通信」をお届けしていきます。



8/8 (日) 竹田でシェイクスピア公演を実施

本学の演劇サークルが中心となって竹田キャンパス開設記念演劇公演を市の協賛を得て竹田市文化会館で行います。7日(土)から30名のスタッフキャストが竹田に行き、竹田キャンパスで合宿。地元の小・中学生にも出演もお願いし、シェイクスピアの「十二夜」を時代劇にアレンジしたものを上演します。

公演は8月8日(日)午後2時から。当日は本学から大型バスが竹田を往復し、下竹田の皆さんにも観劇していただけるよう準備を進めています。

竹田キャンパス通信

はじめまして、竹田キャンパスの情報をお伝えします前田亮二(非常勤講師)です。

5月の中頃より、ようやく竹田キャンパスに移り住む事ができました。個人的な事ではありますが、住民票もこちらに移し、約10年ぶりに大分県民に戻りました。

先日は藍の種を近所の畑に植えさせてもらいました。皆が初めての事で市長も交え、地域の方々10数人で「あ〜だこ〜だ」と言いながら無事種まきが終了。さあ、後は芽が出るかどうか。まあなんとかなるでしょ〜

地域の方々もとても親切な人ばかりで、この場所にたくさんの学生達が遊び、勉強にくるのを楽しみにしていたようです。

みんなで竹田キャンパスを新たな遊び場に仕立て上げて行きましょう!!



藍の種まき(5月22日)▲

Oita Prefectural College of Arts and Culture

WELCOME TO NEPAL



今年度、2名の留学生が本学に入学しました。情報コミュニケーション学科で学んでいるゲワリ・マニ君に、出身国であるネパールについて紹介してもらいます。

NAMASTE (こんにちは)。私はネパールから来たマニと申します。今日は私の国ネパールについてご紹介します。

ネパールは南アジアの北側にあって、北側にはヒマラヤと面しています。北には中国があって東、西と南にはインドがあります。人口は約2700万人で、国民のほとんどがヒンドゥー教と仏教です。

首都: カトマンズ
面積: 147,181平方km (日本の約3分の1)
共通語: ネパール語
時間: GMT+5.75H (日本とは3時間15分の時差がある)
通貨: NRP (Nepal Rupee)
国教: ヒンドゥー教 (世界でヒンドゥー教を国教としている唯一の国)
主な産業: 農業、観光
休日: 土曜日、祝日



ネパールは世界で美しい国の一つです。自然な景色、文化や有名なものがいっぱいあって、だれもが行きたくところだと思います。ネパールの首都はカトマンズで、歴史的なものがたくさんある古い都市です。カトマンズという大きな盆地の中に3つの有名な町があります。ひとつはカトマンズ首府がおかれています。世界遺産



カトマンズ
バサントプール・タワー広場周辺

ネパールには世界で一番高い山・マウントエベレスト(標高8850m)があって北側にはきれいなヒマラヤがあります。きれいな景色や自然がいっぱいあるので観光者の人気があるところです。それからブッダが生まれた国として西側のブッダが生まれた町LUMBINIが有名なところです。



ネパールに行くには 関西国際空港から行く場合、水曜日と日曜日の週2便ロイヤル・ネパール航空がカトマンズ行きの直行便(正確には上海に寄ります)を運航しており、所要時間約9時間です。格安航空券は、シーズンによって価格は違いますがおよそ10万円位から。この直行便はネパール旅行シーズン(だいたい10月から翌年3月くらい)中予約が取りにくいことが多いので、この時期に行く予定のある人は早めに予約を入れるようにしましょう。他には香港経由・バンコク経由で行くというもあります。香港経由の場合、キャセイ・パシフィック航空とロイヤル・ネパール航空の乗り継ぎ、バンコク経由だとタイ国際航空の深夜便があるので翌朝乗換えも比較的スムーズにできます。

次号に続く

ニュージーランド 海外語学実習

柴田 賢幸 (国際文化学科2年)

今回私たちは海外語学実習の一環として、ニュージーランドに行きました。ニュージーランドという国は赤道をはさんで日本とは正反対に位置しており、日本とは季節が逆になります。私たちは2月から3月にかけて行ったので、向こうの季節はちょうど夏ということでとても過ごしやすかったです。ただ、一日の寒暖の差が激しく、朝夕は長袖を羽織らないと肌寒いのに対し、昼は半袖で過ごさなければならないほど暑かったのが印象的でした。

この語学実習を通して、私たちは日本だけでなく、海外にも視野を広げることができました。そして、この体験を今後の進路にうまく活用できるよう頑張りたいと考えています。



ニュージーランド報告会

学生募集ポスター 最優秀賞受賞者紹介

恒例になった全学生対象の 2011 年度学生募集ポスター公募は、美術科デザイン専攻生、専攻科生から 70 点の応募がありました。その中から最優秀賞を含む 6 点を本学の教職員が審査して選拔し、表彰式を 5 月 31 日に行いました。最優秀賞を受賞した学生のコメントをご紹介します。



高橋 歩維 (美術科デザイン専攻ビジュアルコース2年)

今回、学生募集ポスターの応募で最優秀賞を受賞した時、予想もなかった結果に驚きを隠せませんでした。このように文章を書いていると、受賞した実感が湧いてきて嬉しさが込み上げてきます。

今回の作品を制作するにあたっては、親しみ易さと温かさを重視しました。たくさんの方が親しみを持って見る事を意識し、人の手の温かさを感じるように紙粘土を用いた表現に力を入れております。見かけた際はぜひ近くで御覧になって下さい。

私自身、技術的にもまだまだ未熟で、先生方を初めとした多くの人に支えて頂きながら今回の作品を完成させる事が出来ました。制作を支えて下さった方々には心よりお礼を申し上げます。この度は本当に有難うございました！

芸文短大

Information

2010. 7【Jul】▶ 9【Sep】

夏休みにインターンシップに参加しよう！

本学では、今年も県内約70の企業・団体の協力を得て、インターンシップ（職場体験）を実施します。インターンシップに参加すると、仕事に取り組む姿勢や、職場がどんなところかを学ぶことができます。社員さんたちとの人間関係の作り方も学べます。それは、来年の就職活動で大きな力になるはずです。

6月下旬に実習先が決定。7月には、担当教員との打ち合わせや事前指導を実施します。8月16日から9月15日までの間に約5日間の実習を行います。

昨年参加した学生たちも、「大きな声で挨拶できるようになった」「お客様にありがとうと言われて感動した」「商品整理など一見地味な作業の大切さがわかった」(レポートより) など、現場でしか味わえない体験をしています。最後に、協力企業の社員のみなさま、どうぞ今年も本学生をよろしくご指導ください。

音楽科の巡回演奏会の季節です

音楽科では、小中学生や県民に広く音楽の魅力を伝えるため、昭和61年から県内の巡回演奏会を行ってきました。器楽アンサンブルや、合唱や、オペラのハイライトなどの生演奏を行い、毎回音楽のすばらしさを伝えるため、学生も教員もがんばっています。

今年は、9月14日に中津市文化会館、15日に姫島村中学校体育館で行います。

公開講座の受講者を募集しています

本学が主催する公開講座の受講者を募集しています。応募方法等の詳細は、大学ウェブサイトをご覧ください。

8月16日（月）～8月31日（火） 全12回
『パソコン実践力アップ講座—中級 ワープロ・表計算コース—』

9月25日（土）～10月9日（土） 全5回
『ドラマで理解・今時の若者—ジャニーズか？ルーキーズか？—』

夏の風物詩、「SAEMON23」と「大分七夕まつり」に参加します



今年も夏まつりの季節がやってきました。本学では多くの学生がサービスラーニングとして、7月23日開催の「SAEMON23」（大分市鶴崎）と8月7日開催の「大分七夕まつり」（大分市街地）に参加します。5月には各実行委員会を立ち上げ、現在は企画運営会議や開催地視察などを通して、現地の人との意見交流を深めています。

本番当日はオリジナルダンス、ステージ、ワークショップなど様々な企画にチャレンジします。芸文短大生ならではのおもしろい企画ばかりです。ぜひご来場ください。

公開模擬試験「あなたも体験 美術実技公開模擬試験」受講生を募集します

7月19日（月・祝）に、「あなたも体験 美術実技公開模擬試験」と題し、実技の模擬試験を実施します。

デッサン・鉛筆画・平面構成の3コースで、対象は高校生以上、社会人も受講可能です。受講料は無料。

午前中が模擬試験、午後は専門教員による批評とアドバイスをを行います。

受講希望の方は、住所、氏名、年齢、電話番号、希望コースを明記の上、電子メール、または往復はがきで下記の宛先までお申し込みください。締切は、7月9日（金）当日消印有効です。なお、電話での申込は受け付けておりません。

参加申込み・お問い合わせ先	
・デッサンコース 美術専攻副手室 097-545-8548 Eメール：fine-art@oita-pjc.ac.jp	・鉛筆画コース・平面構成コース デザイン専攻副手室 097-545-8641 Eメール：design@oita-pjc.ac.jp

★Calendar

芸文短大カレンダー

7月 July／文月

18日[日] オープンキャンパス

19日[月] 海の日

23日[金] SAEMON23（鶴崎駅前歩行者天国）

8月 August／葉月

1日[日] 音楽科実技試験（～10日）

2日[月] 前期定期試験（～6日）

7日[土] 大分七夕まつり

8日[日] 竹田キャンパス開設記念演劇公演「十二夜」

11日[水] 夏期休業開始

9月 September／長月

14日[火] 音楽科地域巡回演奏会（中津市）

15日[水] 音楽科地域巡回演奏会（姫島村）

16日[木] 後期授業開始

履修登録（～24日）

19日[日] オープンキャンパス

20日[月] 敬老の日

22日[水] 音楽科コンサートシリーズ

23日[木] 秋分の日

27日[月] 履修登録変更（～30日）

編集後記

エピストゥラ vol.20のテーマ「朗らかに歩め」は、小津安二郎監督による同題の映画に着想を得たものです。入学式やオリエンテーションなどの年度初めの行事も終わり、学生たちは地に足をつけ、いよいよ前に進むべき時期を迎えました。特に新2年生は就職活動が本格化します。今回のテーマには、社会に蔓延するネガティブな声に尻込みせず、自信をもって着実に歩みを進めてほしいとの願いが込められています。我々教職員一同ならびに保護者の方々も、いたずらに不安にならず、彼ら彼女らを応援してゆきたいものです。